令和７年度　夏期インターンシップ生受入れ予定一覧表

番号	受入れ部署		受入可能期間			留学生	受入れ対象	受入れ可能人数	実習内容	備　　考	指導担当者１			指導担当者２			指導担当者３		
	局・部・グループ	チーム・班・担当	自	至	受入れ最低期間						役職	氏名	内線番号	役職	氏名	内線番号	役職	氏名	内線番号
1	技術推進本部	先端技術チーム	令和7年9月1日頃	令和7年9月26日頃	最低1週間	不可	院・学・高	2名	・ 実験計画・ 準備の補助 ・ 実験中の計測補助、実験後のデータ 整理・ 解析、結果の検討 ・ 技術相談等への同席、資料作成補助 以下に関連する実験、技術相談等　を予定している。 ・ 人が搭乗しない複数の建設機械を 自動で施工させるためのシステム開発と 動作実験 ・ インフラ管理施設(水門、ポンプ 等)において、ロボット やデジタル技術を 用いた状態把握手法により、点検や診断の効率向上に向けた実験	受入れ可能期間（ 令和7 年9 月1 日頃から同年9 月2６ 日頃まで）について、学会等の都合により受入れできない期間が発生する恐れがございます。受入れができない期間とご希望の実習期間と 重なっておりましたら、実習時期についてご相談さ せていただきますのでご了承く ださい。	上席研究員	味田　悟	3561	上席研究員	橋本　毅	3568			
2	流域水環境研究グループ	自然共生研究センター	令和7年7月1日頃	令和7年9月30日頃	2 週間	不可	院・学・高	3名	魚類、水生昆虫、付着藻類などの河川生物に関する調査、実験河川を 用いた大規模操作実験、実験室での基本的な 生物のソーティング、水理計算の基本的な作業、取得データ の打ち込み・ 整理		主任研究員	森　照貴	0586-89-6036	主任研究員	宮川　幸雄	0586-89-6036	研究員	松澤　優樹	0586-89-6036
3	道路技術研究グループ	舗装チーム	令和7年7月1日頃 及び 令和7年9月16日頃	令和7年8月8日頃 及び 令和7年9月30日頃	1 週間以上	不可	院・学・高	1名	実習生が見学可能な活動 ・　自動運転荷重車を 用いた実大載荷試験 ・　路面性状測定車両および機器を 用いた調査 ・　舗装に関する様々な室内試験 舗装の基礎的知識の習得に加えて、以下に関連し た内容を実施する。 ①舗装の損傷メカニズムに応じた長寿命化技術の検討 舗装走行実験場における実大載荷試験や、土研中心に開発した装置等を用いた調査およびそのデータを 活用した解析等により、舗装をより長持ちさ せるための対策技術について検討する。 ②理論的手法に基づく 舗装の構造設計方法の検討 現在、舗装の構造設計は経験的手法により 行われることがほとんどであるが、新技術への対応が困難という 課題が顕在化し つつある。様々な新技術に対応可能で経験によらない設計手法について検討する。		主任研究員	田中　俊輔	4624								
4	河道保全研究グループ	水工チーム(河道班)	①　令和7年7月14日頃 ②　令和7年9月1日頃	①　令和7年8月15日頃 ②　令和7年9月26日頃	1 週間以上	不可	院	1名	①土砂バイパストンネルの摩耗損傷について、次のいずれかの作業を実習内容とする。 　・ 土砂バイパストンネルに関する水理実験、PIV計測、データ分析等 　・ 土砂バイパストンネル内の流況分析のための数値シミュレーション ②河道の二極化または橋梁の洗掘について、次のいずれかを実習内容とする。 ・ 実河川のデータを 用いた二極化の要因分析 ・ 橋梁周辺の根入れ深さに関する現地調査、データ 整理 ・ 橋梁周辺河道の河床変動計算 ※　実習内容①②いずれも 同じ 受入れ可能期間		研究員	熱海　孝寿	4442	主任研究員	小関　博司	4443			
5	河道保全研究グループ	水工チーム(ダム班)	令和7年8月18日頃	令和7年8月29日頃	最低1週間	可	院・学・高	2名	ダムの計画、設計、水理模型実験について、次の作業の内から 実習内容とする。 　・ ダム水理模型実験、実験データ　分析等 　・ ダム周辺の流れに関する数値シミュレーション 　・ 可能であれば現地調査	現地調査について、公共交通機関を利用する場合は、公共交通機関の利用料金を支給できないため、実習生若しくは大学負担可能であれば実施。土木研究所の公用車に同乗する分については、負担なし。 ※ 受入可能期間以外の受入れも 相談可。	研究員	高田　翔也	4446						
6	河道保全研究グループ	河道監視・ 水文チーム	令和7年7月1日頃	令和7年9月30日頃	1 週間程度	可	院・学・高	1名	画像解析を 用いた表面流速計測について。		主任研究員	萬矢　敦啓	4432						
7	水災害研究グループ		令和7年7月頃	令和7年9月頃	左記期間で1週間の受入	不可	学	10名	タイトル:「 仮想洪水体験システム（ VFES）」に関する水文モデルおよび仮想空間におけるハザードマップ 作成演習と発表 内容:「 仮想洪水体験システム（ VFES）」のマインクラフト 版かUnity版の常総市版で、水文モデル演習（ iRIC（ RRIモデル）で実施）および仮想空間におけるハザード マップ 作成演習を実施 想定スケジュール: 1日目　「 仮想洪水体験システム（ VFES）」やマイタイムラインなどに関する概要説明 1日目～3日目　水文モデル（ iRIC（ RRIモデル））、仮想空間におけるハザード マップ作成、マイタイムライン作成などに関する講義と 演習（ できれば現地視察含む） 4, 5日目　ディスカッション 5日目　ディスカッション結果のプレゼン、議論 ※演習用のパソコンは可能であればインターン生が持参。無い場合は土研から 貸与。	本チームの主任研究員は、信州大学では特任教授・ 筑波大学では教授（ 連携大学院）として任用されており、それぞれの学内で1週間のインターンシップを 実施できる可能性あり。対象人数は、それぞれ10名程度。実施可能な場合、各校の立地場所に近いはん濫域でハザード マップを 作成（ 信州大学であれば千曲川、筑波大学であれば小貝川など）。学内で行うことにより、多様な学問領域の学生が土木研究所の活動を知る 端緒を 作ることも 目的とする。	主任研究員	傳田　正利	3908	研究員	山下　大輝	3817			
8	橋梁構造研究グループ		令和7年8月18日頃	令和7年9月26日頃	最低1週間 ※ 8月25日～8月29日、 　9月8日～9月12日を 除く	不可	院・学・高	3名	・ 道路橋の地震発生後の点検に関する 研究の紹介、技術使用の体験、地震応答解析演習 ・ 鋼橋の損傷事例や基本的な損傷メカニズム等の説明 ・ 疲労亀裂や腐食減肉が生じた鋼部材の非破壊調査演習 ・ 計測技術の紹介(デモンスト レーション)・ 体験実習 ・ コンクリート 橋における診断支援AI システム及び非破壊点検技術の紹介・ 現場現場実習　等	・ 具体的な 実習内容や実習計画については、実習生の希望や学習状況、業務の進捗状況などを 踏まえたうえで決定します。 ・ 受け入れ時期、期間の詳細はご 相談く ださい。	主任研究員	二宮　智大	4720						
9	材料資源研究グループ	先端材料・ 高度化担当	令和7年7月1日頃	令和7年9月30日頃	1 週間以上	可	院・学・高	2名	土木分野で用いられる代表的な材料（ FRP、塗料、補修材料、アスファルト 、セメント 系材料など）に関する社会的課題を解決するための性能評価手法を具体事例を 通じて体験する。 【 テーマ】 （ １ ）環境負荷低減を 目指した水性・ 無機系塗料の評価 【 実習内容】 ・ 暴露供試体等を 用いた実験とデータ 解析を 通じた性能評価 ・ 可能であれば現地調査にも 同行し 劣化診断や実環境での暴露状況を 観察する	化学系学科あるいは物質系学科（ 分析化学、物理化学、無機化学、有機化学、高分子化学、材料科学、物質工学、化学工学、環境化学、農芸化学など）もしくは腐食防食を 取り 扱う 土木系学科の学生を 対象とし ます。 担当者の都合により、作業内容により 受け入れできない期間があります。	上席研究員(特命事項担当)	冨山　偵仁	4121	上席研究員	百武　壮	4141	研究員	船山　真理	4127

※　研究企画課　夏期インターンシップ生（長期）担当（TEL：029-879-6751、mail：saiyou-kikaku@pwri.go.jp）
※　院：大学院、学：大学、高校：高等専門学校（研究所が同等と認める機関を含む）